



参拝者を照らすスウェーデントーチとアイスキャンドル

12月31日～1月1日

トーチとキャンドルで温めて  
西庶路神社ご神灯設置

西庶路神社では、昨年に続き12月31日の深夜から1月1日未明にかけて、参道にご神灯としてスウェーデントーチ35個がともされました。また、今回は庶路学園で作られたアイスキャンドル32個も一緒にともされ、参拝者の心と体を温めました。スウェーデントーチは、西庶路在住の石井礼造さんが作成。参拝に訪れた方々は「きれいですね」と喜んでいました。

12月26日

秋の叙勲伝達式  
平木さんに社会福祉功労

元民生委員児童委員の平木美智子さんが、秋の叙勲で瑞宝単光章（社会福祉功労）を受賞し、役場で伝達式が行われました。平木さんは1980年から36年間、地域の見守りや相談、支援など福祉活動に尽力しました。

平木さんは「委員の活動中に一番力になってくれたのは主人です。家族や周囲の協力で務めることができました。感謝しています」と受賞を喜んでいました。



受賞を喜ぶ平木勝廣さん(左)と美智子さん夫婦

12月21日

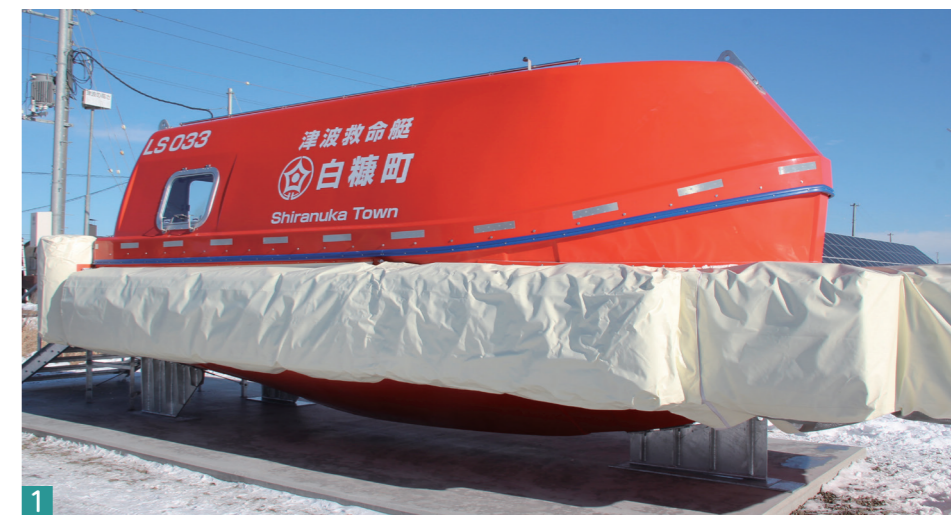
津波に備えて  
「津波救命艇」設置

町は、恋問地域の津波避難対策として恋問集会所の敷地内に「津波救命艇」を設置しました。

この日は、津波救命艇のお披露目・住民説明会を同集会所で開催し、恋問地域から13人が参加しました。

説明会では、棚野孝夫町長が「救命艇を直に見て、防災への心構えを持ち、いざというときに対応できるようにしてほしい」とあいさつしました。その後、参加者は救命艇に乗り込み、役場地域防災課職員からシートベルトの着用方法や備蓄品の場所などの説明を受けました。

恋問町内会の森田和夫会長は「救命艇を使う日が来ないことが一番ですが、いざというときのために使い方をきちんと覚えたい。救命艇が地域に設置されたので、ひと安心です」と話していました。



①津波救命艇は全長8.74m、幅3.53m、高さ3.1mで高い強度をほこっています ②町職員（中央）が使用方法などを説明 ③救命艇内には防寒グッズや飲料水、非常食などが備蓄され、簡易トイレも設置されています



柳谷法司白糠漁業協同組合長の発声で乾杯する出席者

1月4日

環境教育と環境に配慮したまちづくり  
白糠町新年交礼会

白糠町は社会福祉センターで新年交礼会を開き、経済や産業など各界から約100人が出席し、新年を祝うとともに町のさらなる発展を誓いました。

年頭あいさつで棚野孝夫町長は「将来を見据え、環境教育と環境に配慮したまちづくりを徹底的に進めていく」とした上で「町の発展のためには経済を活性化させていかなければならない」と意欲を示しました。

1月3日

福袋を求めて恋問館に大行列  
新春大売り出し

道の駅しらぬか恋問の新春大売り出しが恋問館で行われました。白糠漁協直売所の「お魚の福袋」や町振興公社の「お肉の福袋」、白糠酪恵舎の「チーズセット」などを求め、200人を超える列ができていました。

お魚の福袋（限定250袋）には、1割の25箱に毛ガニが入っていることから毎年の目玉商品。いずれの福袋も販売開始約10分で完売するほど、大盛況でした。



お魚の福袋を買い求める人たち



有賀さん親子がクリスマスケーキやお菓子をプレゼント

12月24日

子どもたちにケーキやお菓子  
クリスマスプレゼント配布

NPO法人陽向ぼっこ（儀同一義代表）は、クリスマスの贈り物として、公益財団法人「パブリックリソース財団」からの助成金30万円を活用し、ひとり親家庭など48世帯に米や肉、お菓子などを配布しました。

また、町内在住の有賀武千代さんがクリスマスケーキ15個を同法人へ提供。子ども食堂や無料塾を利用している子どもたちへプレゼントしました。

12月23日

管楽器の演奏&音楽付き絵本  
クリスマスコンサート

クリスマスコンサートが社会福祉センターで行われ、来場した約100人がクリスマス気分を味わいました。

コンサートは2部構成で行われ、1部では「ラストクリスマス」など計12曲が披露されました。2部では、山田陽子さんと笠原茂子さんのピアノ演奏に合わせて、情操教育指導者の斉藤弥音さんが絵本「くるみ割り人形」の読み聞かせを行いました。



出演者は学校の教諭や地域おこし協力隊の計7人